

# 地域ケア会議の実践とその進め方

## ～地域ケア会議を支援するためには～

平成26年12月10日

NPO全国在宅リハビリテーションを考える会

WAM助成事業実行委員会

# 研修目的

高齢者や障がい者が、いつまでも住み慣れた地域で、自分らしい生活が送れるように、在宅生活の自立度向上を目的とし、リハビリテーションの視点から、在宅生活の適切な評価とアセスメント力を向上させる地域ケア会議や担当者会議等の場面で、医療・保健・福祉・介護の専門職間の情報共有を円滑にし、且つ多職種へ分かり易く適正に伝える事が出来るリハビリ専門職の育成に寄与する事。

# 研修概要

1.日 程：平成27年2月14日（土）、および15日（日）

※2月15日（日）は、希望者のみ参加するワークショップを実施予定

2.場 所：コクヨホール（東京／品川）

3.参加費：無料

4.対 象：リハビリ専門職

- ・NPO全国在宅リハビリテーションを考える会（会員事業所の管理者等）
- ・日本理学療法士協会会員（地域包括ケア・介護予防推進リーダー、介護予防アドバンス履修者等）
- ・訪問リハ管理者研修ステップ1以上の履修者、訪問リハリーダー会議の各県代表者等

※日本作業療法士協会／日本言語聴覚士協会へのご案内も検討中

5.申込：下記URLのWebページより申し込み

1/31（土）締切 <https://ssl.form-mailer.jp/fms/8d347f59334242>

6.定 員：200名

# 研修内容

1日目:平成26年2月14日(土)／13:00～17:00

## 講演:地域包括ケア会議においてリハ専門職に期待すること

講師:川越 雅弘先生(国立社会保障・人口問題研究所)

時間:60分  
13:00～14:00

講義ポイント:地域包括ケアシステムに関わるために

## 報告:介護報酬改定と新しい総合事業への関わりについて

講師:野崎 展史(公益社団法人日本理学療法士 事務局職能課)

時間:60分  
14:10～15:10

講義ポイント:改定の概要とその対策について  
講義概要↓

- ①介護報酬改定の概要
- ②新しい介護予防・日常生活支援総合事業の概要
- ③多様なサービスへの理学療法士の関わり方とは

## パネルディスカッション:自立支援のイメージづくり

司会:梅田 典宏(株式会社 ジェネラス 理学療法士)+パネリストA,B,C

時間:(90分)  
15:20～16:50

講義ポイント:多職種におけるイメージ共有の実践  
講義概要↓

- A.ケアマネとの共有場面(サービス終了に向けて)
- B.多職種間での共有場面(サ担当者会議での活用)
- C.リハ職同士の共有場面(事例報告としての活用)

2日目:平成26年2月15日(日)／9:00～12:30

## 講義:ケアマネジャーとの信頼関係づくりについて

講師:橋本 真一(ポジブル医科学 FCコンサルティング運営部 部長)

時間:60分  
9:00～10:00

講義ポイント:ケアマネジャーは重要な地域資源  
講義概要↓

- ①ケアマネジャー業務の実際とは?
- ②選ばれるリハ事業所になる為に(営業・広報活動)
- ③居宅訪問の戦術(モデル事例の効果的な提示)

## ワークショップ:高齢者の住まいへの提案

～住み続ける為に、リハビリテーションが必要です～

進行:川副 巧成(NPO全国在宅リハビリテーションを考える会 理事)

時間:120分  
10:10～12:10

1)ワークショップの概要:

高齢者が、下記の住まいで安心安全に住み続ける為の留意点等を分析し、リハビリテーションの知識・技術を活かした提案書の作成と、ケアマネを想定したプレゼンテーションの演習を行う。

- ①サービス付き高齢者住宅
- ②認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
- ③小規模多機能型居宅介護事業等

2)ワークショップの流れ:

- ↓機会をどう作るか?(介入のきっかけづくり)
- ↓動機づけと計画(介入中のファシリテート)
- ↓評価とフィードバック(介入効果の検証)
- ↓新たな機会の創出へ(ネットワークづくり)

# 実行委員会一覧

## ・研修準備・運営担当者

- ①川副 巧成(NPO全国在宅リハを考える会)
- ②橋本 真一(ポシブル医科学株式会社)
- ③小幡 匡史(株式会社 Think Body Japan)
- ④梅田 典宏(株式会社 ジェネラス)
- ⑤小馬 誠士(株式会社 アール・ケア)
- ⑥下村 周一(有限会社 ほっとリハビリシステムズ)
- ⑦前田 真吾(社会福祉法人 慶生会)
- ⑧荒木 幸枝(Total Habilitation System Group)